警告灯

青葉ミチル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

警告灯

【Ｎコード】

Ｎ３３７９Ａ

【作者名】

青葉ミチル

【あらすじ】

何と云うか、ぼやき？の類。短くて個人的で面白く無いです（笑。

女と云うには未だ未だ未熟な四肢を殊更乱暴に投げ出して、ごろり。と音をさせて冷たい床に転がる十六才のあたし。萎えた指先から足先から身体中の穴と言う穴から忽ち噴出する、濁ったどす黒い怠惰。

「…虚しい。」

暗闇の底に横たわってじっと動かずに居ると、救急車のサイレンが窓の向こう側に鳴り響いて軈て通り過ぎて行った。耳の奥に微かな余韻を残して。あたしは現在この瞬間にも失われるやも知れ無い生命を想って瞼を伏せる。

あたしは常に酷く疲れて居た。目の前を浮きつ沈みつして流れ去って逝く、世の中を型づくる事象の全てに。虚無感ばかりがぐるぐると頭を支配して、歩く側から泥土に足を取られ、藻掻けば藻掻く程にずぶずぶと呑み込まれて行くのだ。

「下らない…」

邪悪な腕と云う腕は幾度引き千切ろうと妨若無人に絡み付いてきてあたしをこの部屋に拘束する。矛盾ずくめにして拷問を繰り返し、数字を掲げてナイフを突きつける。血を流しながら抵抗を試みる獣を這いつくばらせ、とどめだけは刺さずに只歪んだ笑みをその二つの眼に浮かべて見下ろして居る。

…もう嫌だ。

…もう沢山だ。

嗚呼、意味すら帯れぬ我が生命也。生まれ出づる悩みは不毛、荒波を生き抜く知恵も不要。幾等明日に手をかざせども何一つ掴めず仕舞いに御座居ます。

…もう嫌だ。

…もう沢山だ。

そして嗚呼！

残酷な朝が、窓の外を白々しく染めあげる。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3379a/

警告灯

2011年1月15日22時35分発行